

一

次の各文の——線部のカタカナの語を漢字に直しなさい。

- ① それはイガイな結果だ。
- ② 新制度にイコウする。
- ③ ある状況をカテイする。
- ④ 絶好のキカイを逃した。
- ⑤ 彼はキシヨウが激しい。
- ⑥ ケントウがつかない。
- ⑦ 博士のコウエンを聞いた。
- ⑧ 失礼をアヤマる。
- ⑨ 団結がカタい。
- ⑩ 花をソナえる。

二 次の慣用句の空欄 A 〱 E に体の部分を表す漢字一字を入れて、慣用句を完成させなさい。また、慣用句の意味としてふさわしいものを、後のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|---------|---|-------|
| ① | A | を疑う。 | ∴ | 【意味①】 |
| ② | B | が下がる。 | ∴ | 【意味②】 |
| ③ | C | から火が出る。 | ∴ | 【意味③】 |
| ④ | D | を折る。 | ∴ | 【意味④】 |
| ⑤ | E | をひっぱる。 | ∴ | 【意味⑤】 |

意味 ア 恥をかかせること。

イ たいへん恥ずかしい思いをして赤面すること。

ウ 人の仕事のじゃまをすること。

エ 思いがけないことを聞いて、信じられないと思うこと。

オ 感心させられること。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数制限のある問題では、句読点も字数に含むものとします。ただし、設問の都合上、本文を改めた所があります。

生物部で日々の活動しながらも、高校二年生にもなれば、いよいよ本格的に進路について考えなければいけません。僕は生物好きではありましたが、本ばかり読んでいた少年時代のせいなのか、受験生としては完全に文系アタマの持ち主でした。

とにかく数学が大の苦手。そもそも、中学校に入学して最初の中間テストで僕は赤点（点数はとても恥ずかしくて言えませんが、少なくとも半分以下です）をとったくらいです。その延長線で物理・化学もとても苦手で、学校のテストでは毎回のよう^①に赤点ギリギリの点数でした。

一方で、国語や社会、英語は、順調に学力が上がってきていて、たまに受けた模試でもちゃんとした結果が出ていました。ふつうに考えれば、文系を選ぶべき頭の中身です。

それでも、悩んだ末に僕は、理系を選ぶことにしました。子どもの頃からのあこがれだった「生き物博士」になる夢を叶えるため、^②というのはもちろん大きな理由のひとつです。でも、本当の根っこの部分にはもっと深い理由がありました。それは、「死ぬこと」への恐れです。

人は誰しも、自分がいつか死ぬということを想像して、急に恐ろしくなった経験があるんじゃないかと思います。あまり他人に話すことでもないのですが、お互いに気付かないものだと思いますが、僕の場合、それは小学生から中学生くらいのことでした。

「人が死ぬということは、一体どういうことなんだろう」、「死んだら、僕はどこにいくんだろう。この世界との関係はどうなってしまうんだろう」……。考えれば考えるほど答えは出ず、怖くて夜も眠れない日もありました。翌朝になったらサッパリ忘れていてふつうに日常を過ごすのだけど、ちょっとしたきっかけで思い出して、^③また考え込んで……。

いろいろ突きつめていくうちに、当時の僕は僕なりに二つの解決法があるという結論に達しました。

一つは、文系的な解決。文学とか哲学のような考え方を通して、答えを求めるということです。それは、人が生きること・死ぬことの意味を、どこまでも自分と向き合って問い続けていくこと。自分なりの答え・意味を、人生を通して見つけ出そうとすることです。

デカルトという哲学者の言葉で、「A」というものがありますが、僕なりの解釈では、これは「自分の世界は、自分が生きて考えているからこそ、存在している」というような考え方です（本当はもともと難しい内容をふくんだ言葉だと思うのですが、あくまで僕個人が、人生を考えるうえで勝手に解釈した意味です）。

この考えでいくと、自分が死んでしまつて考えることができなくなった時点で、この世界は終わり、ゴールです。それまでに納得のいく答えさえ見つけてしまえば、とても満足して死んでいけるように思えました。^④でも、当時の僕には、それはなんだか修行のようにつらそうな道に思えました。

もう一つは、理系的な解決です。これは、生物部でさまざまな生き物の世界を身近に感じることで、自然と湧き出てきた発想です。たとえば今この瞬間、一匹のチョウが死んだとしても、まわりをとり囲む大自然はなにも変わらずに回り続けます。おそらく、そのチョウをアリの食べ、その栄養で新しいアリが育ち、そのア리를食べてトカゲが成長し……と、自然は自然のサイクルにしたがつて、^⑤淡々と回っていくはずで、そこに、意味や答えはありません。

同じように考えれば、もし僕が死んでも、きつと当たり前前に世界は続いていくでしょう。火葬^{かそう}されるにせよ、ただ僕の体が、窒素や炭素といった物質に分解されていくだけです。それはいずれ他の生き物にとりこまれて、なにかの一部になるでしょう。

そして、それは、自分の意識とは関係なく勝手に起こっていくことです。疑問をはさむ余地もない、と考えるのです。さっきのデカルトの言葉を借りるなら、「我思っても思わなくても、我はどっかにあり」みたいな考え方です。生きること・死ぬことの意味を考える、それ自体にも意味がないということです。

これは、実際に山や海の中で生き物に囲まれて過ごす、不思議とB納得してしまう考え方です。目の前で無数の命のサイクルが淡々と回っているのを目にしていると、自分は大きな大きな自然の中の、たった一つの命に過ぎないんだと、ごく自然に思えます。^⑥この世界はどのように存在しているのだろうか？ なんて発想にはいたりません。かわりに、なにかに包まれたような安心感をおぼえるのです。

^⑦結果として、僕は後者の考え方を選びました。理系の道へ進み、生き物の世界に身をおきながらその原理をもっとと深く知るところで、自分の存在をその中にゆだねてしまおうと思ったのです。自分の人生に特に意味なんてない、と考えるのは少しC氣もし

ましたが、それ以上に、この世界そのものが魅力的だと、素直に思えました。

これはあくまで勝手な想像ですが、昆虫学者のファールは、死ぬことを恐れていなかったのではないかと思います。彼のまわりにはきつとたくさんのムシたちがいて、たくさんの生命の営みと、当たり前のような死があったはずで、自分の死も、その中のほんの一つとして、ごく自然に受け入れられたのではないのでしょうか。

^⑧現在の自分は、生き物とは全く関係のない業界に身をおいていますが、今でも根底にはいつもこの考え方があります。仕事でもなんでも、許される限り海や山に行きたい、生き物と触れ合っていたい。それは、自分のこの考え方を再確認することができるからです。

（梶太一『理系アナ梶太一の生物部な毎日』による）

問一——線①「文系アタマ」とありますが、どういうことですか。文章中の言葉を使って、三十文字以内で答えなさい。

問二——線②「根っここの部分」とありますが、「何についての」根っこなかを答えなさい。

問三——線③「また考え込んで……」とありますが、なぜ「また考え込んで」しまうのですか。その理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 文系アタマなのに理系を選びたい気持ちが強かったから
- イ あまり他人に話さず自分だけで何度も考え込んでしまうから
- ウ いくら考えてみても自分で答えを出すことができないから
- エ 眠れない日があるのに翌朝にはサッパリ忘れてしまうから

問四 空欄 A にあてはまる言葉を、次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 我思う、ゆえに我あり
- イ 我あり、ゆえに我思う
- ウ 我思う、されど我あり
- エ 我あり、されど我思う

問五 — 線④「でも、当時の僕には、それはなんだか修行のようにつらそうな道に思えました」とありますが、なぜこのように思ったのですか。その理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 文系アタマで答えを見つけるには、文学や哲学と向き合わなければならず、不安に思ったから
- イ 人が生きること・死ぬことの意味を死ぬまで考えなければならぬと思ったから
- ウ 自分が考えることができなくなった時点でこの世界が終わると考えると息苦しさを感じたから
- エ 生物部の野外活動に比べると、人が生きること・死ぬことの意味を考えることが退屈だったから

問六 — 線⑤「当たり前前に世界は続いていく」とありますが、どういうことですか。 — 線⑤より前の部分から二十五字で抜き出して答えなさい。

問七 空欄 B にあてはまる言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア さつさと
- イ じっくりと
- ウ やつと
- エ すつと

問八 — 線⑥「おぼえる」とありますが、この言葉のここでの意味として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自然に感じる
- イ 突然思いつく
- ウ ふと思いつく
- エ はっきり記憶する
- オ スッキリ感じる

問九 — 線⑦「結果として、僕は後者の考え方を選びました」とありますが、なぜそうしたのですか。その理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 理系の道へ進み、生き物に囲まれて生活することで、将来の職業と直結することに出会える予感がしたから
- イ 理系の道へ進み、生物の世界を知ることによって、自分を大きな自然の中において、温かく包まれたいから
- ウ 理系の道へ進み、自然の原理を深く知ることにより、生きる意味を科学的に探求していきいたいと思ったから
- エ 理系の道へ進み、科学的・論理的な思考を身につけることで、人生や死の意味を考える必要がなくなるから

問十 空欄 C にあてはまる言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア うれしい
- イ なれなれしい
- ウ きどった
- エ まぎらわしい
- オ さびしい

問十一 ― 線⑧「現在の自分は、生き物とは全く関係のない業界に身をおいていますが、今でも根底にはいつもこの考え方がありま
す」について答えなさい。

(1) 「この考え方」とはどんな考え方ですか。「自分の命」という言葉を使って、解答欄に合うように、二十五字以内で答えな
さい。

(2) この文章の作者は、現在、民放のテレビ局のアナウンサーとして仕事をしています。この文章の内容についての説明として
最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 理系とは全く関係のない業界に身をおくことになるのだったら、何のための文系・理系の選択だったのかと思っている
イ 理系の道に進んだ自分が高校時代に悩んだことは、今でも自分の人生を支える大切な考え方の元になっていると思ってい
る

ウ 理系の道に進むか文系の道に進むかを迷った時に、得意科目だけで進路を決めなくて良かったとあとに続く中高生に訴え
ている

エ 理系とは全く関係のない業界に身をおくことになったが、理系の知識をいかした番組作りができてよかったと思っている



得	点